

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070100296		
法人名	社会福祉法人 浩和会		
事業所名(ユニット名)	竹の里園		
所在地	和歌山市明王寺3-1		
自己評価作成日	平成27年10月12日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成27年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の郷公園に隣接した自然豊かな環境の下、四季折々の行事を多く取り入れながら、ゆったりと生活して頂いている。又地域住民に開かれた施設作りのため、併設の特養中心に盛大な夏祭りを開催したり、地域の芸能大会に参加している。またボランティア訪問や、地域の児童・園児との交流の機会を設け、地域交流を深めている。さらに、併設の診療所や、特養の看護師との医療連携が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然に囲まれ四季折々の季節を感じられる環境に立地している。事業所の周辺には同法人の特養をはじめ様々な事業所が隣接しており、協働体制にある。利用者や家族は、特養や診療所があることで安心して生活を送っている。また、法人全体で地域との関わりを大切にしており、特に夏祭りには大勢の地域住民が参加し交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「利用者様の立場に立つたサービス」を心がけ、管理者と職員は利用者が笑顔でその人らしい生活が送れるよう支援している。	事業所の理念は、職員が意見を出し合い作り上げたものであり、玄関に掲示されている。管理者と職員は、利用者が日々の生活の中に笑顔が見られるよう、ケアに取り組んでいる。	管理者と職員は、理念を共有し意識づけしていくために、定期的に話し合う機会を持ち、実践に繋げていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設との合同夏祭りを盛大に開催し、地域の人たちと交流を図っている。又、地域の老人会主催芸能発表会に参加したり、地域の幼稚園との交流も定期的におこなっている。	同法人の夏祭りには地域の住民が参加している。また、同法人内の特養に幼稚園児やボランティアの方々が訪問の際は、利用者全員が参加し交流を持っている。事業所にはフラダンスや語り部クラブのボランティアの訪問もあり、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の各種団体主催の行事を、当法人の施設を提供して開催する等、地域の人々に立ち寄ってもらえる機会を作り、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し意見交換や助言をいただき、会議の内容を全職員に周知している。	運営推進会議は法人内の他事業所と合同で行っており、市や地域包括支援センターの職員、民生委員、幼稚園園長、公民館副館長、家族等多くの方が参加している。会議では写真をスライドショーにし、職員が説明しながら事業所の様子を分かり易く伝える工夫をし、それに対して意見交換を行うなどサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、特養の事務職員を通じて、様々な情報を得ている。また、運営推進会議には、包括センターの職員に出席して頂き、情報の共有を図っている。	市の担当者への窓口は副施設長になっており、介護保険課や支援課などと情報交換し協力関係を築いている。また地域包括支援センターからは研修等の情報をもらうなど日頃より連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修委員会が開く身体拘束に関する研修には全職員参加し知識の共有を図っている。職員一同特に言葉の拘束に気を付けている。	法人内の研修に参加し、身体拘束について正しく理解している。特に、言葉かけやスピーチロックには気を付けており、すぐに職員が対応するように心掛けている。また、玄関は基本施錠はせず、自動ドアのスイッチを切りチャイムをつけて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の内・外研修に参加している。又、入浴時には、必ずボディーチェックするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している方がいらっしゃるのので、職員も関心を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定等の際は、家族に十分な説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、家族交流会、運営推進会議の席上で意見を聞いたりして、気軽に話が出来人間関係を築いている。また意見箱も設置している。	毎月のお便りや、電話、家族が面会に来られた時などには様子を伝えると共に意見や要望を聞いている。具体例としては「職員の名前と顔がわからない」という意見を受け、ボードに写真を貼り名前を書き、分かるようにし玄関に掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議などで意見や提案を聞き、日々話し合いをしている。	会議や日々の申し送り時など職員からの意見等を聞く機会を持っている。利用者の状態によって勤務時間を変更したり、休憩時間の取り方について等、職員から意見や要望があり、その都度、変更するなど運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れ、職員の向上心を育成している。また、安全衛生委員会を中心に職員のストレスチェックやアンケートを行い、職員の意見にも傾聴するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には年間研修計画があり、2か月に一度職員全体研修を行っている。また個人のスキルアップのためキャリアアップ研修の受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症支援協会に加入し、情報を得ようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで、本人及び家族と面接の機会をつくり、居宅での生活状況・趣味・好き嫌い等できるだけ把握し、サービスの開始にそなえている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請時や入所前の面接時に家族の要望をしっかりと聞き、入所後のケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者及びその家族にとってグループホームでの生活が最適であるかを家族やケアマネジャーともよく相談し決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物を干したりお茶を入れて頂く等、毎日の生活を通し、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に連絡を取り合い、できるだけ来園していただけるよう協力をお願いしている。又、家族にも参加していただける季節行事(花見、夏祭り、敬老会)を組み入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の親類や知人との関係が途切れないよう、家族にも協力を依頼しているが時と共に疎遠になっている。	職員が同行し自宅に帰ったり、懐かしいアルバムを見て昔を思い出したり、また家人と外出したり、墓参りに行くなど馴染みの関係が途切れないよう、家族にも協力を得ながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者が話をしたり、一緒に洗濯物をたたんだり、日常生活の中でお互い助けあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所され、特養に入所された方について、転入先の職員と情報を共有し、直接的、間接的に支援関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護保険更新やモニタリング時に本人や家族からグループホームでの暮らしについての要望を聞いている。また、日々の暮らしの中での会話や様子などからも把握するよう努めている。	入居時に生活歴や職歴などを聞き、入居後には日々の生活の中から希望や意向を把握している。また、利用者ごとの申し送りノートを利用し、情報の共有を図っている。把握が困難な場合は、家族等から聞き本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホーム入居時及び入居後も随時本人や家族そして入所前の担当介護支援専門員等から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	顕著に表れる周辺症状に囚われず、利用者の出来ること(力)を第一に総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングやアセスメントを行っている。また、担当者会議や日々の申し送り時での情報も含め介護計画を随時見直し、作成している。	家族や利用者には日ごろより意見や要望を聞き、定期的にモニタリングを行い、介護計画作成時には全職員とカンファレンスを行っている。また、主治医や看護師から計画作成者が必要に応じて意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌(日別生活記録表)に、利用者の様子や表情を客観的に、そして会話内容も日勤帯と夜勤帯それぞれ記録している。そして次のケアに繋がるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状態に応じ通院の付き添いや送迎を行っている。又利用者の体調に合わせ食事の量や質がふさわしいものとなるよう専門職にアドバイスをもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の事業所と合同で、ボランティア団体や、児童・園児との交流等を定期的に行っている。また2ヶ月に一度訪問理美容の来園があり整容された状態で暮らすことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム入居後も継続してかかりつけ医の医療がうけられるよう支援している。また、希望により、併設の診療所も利用できる体制にある。	かかりつけ医の選定は本人、家族の希望を聞いているが殆どの利用者が併設の診療所をかかりつけ医にしている。他院の受診は家族が対応し適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設された特養の看護職員や往診に訪れる医師に日々の生活の中での情報を伝え、適切なアドバイスをもらうことが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療病院契約を締結しているため、スムーズに入院の支援ができています。また、入退院、及び入院中は、家族や医療機関と情報提供・情報収集を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホーム入居時に終末期等のケアの概要を伝えており、利用者の状態に合わせて随時本人、家族と話し合っている。終末期にいたっては、協力医療機関や特養の看護職員・管理栄養士を含めた支援体制をとっている。	重度化や終末期のケアについては入居時に「看取りの指針」にて説明している。希望があれば事業所での看取りは可能であり、職員間でも話しあっており、併設の特養の看護師や主治医と連携を図る体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え救急搬送先を家族に確認し、目につく場所に貼っている。又心肺蘇生法やAEDの使用法など、定期的に研修の機会を設け、技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防避難訓練を行っており(年2回)消防署員も交えた訓練の際には具体的なアドバイスを得ている。又他部署や地域の消防団との協力体制も出来ている。	災害対策として毎年、消防署立ち合いの避難訓練を1回と、事業所独自で開催する利用者と一緒に昼夜間を想定した訓練を1回行っている。備蓄としてレトルト食品や携帯コンロを準備し、法人の特養で水等を準備している。また、災害時には同敷地内の各事業所が協力体制にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人の立場にたった思いやりある言葉かけをし対応している。	呼称は基本的に姓で呼んでいる。トイレ誘導時など声掛けに気を付けお互いに注意し合い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	車いす用のトイレがカーテンで仕切られておりプライバシーの確保が十分とはいえない。利用者が安心して排泄が出来るように職員間で話し合い工夫をすることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつメニューを一緒に考えたり、着る洋服を出来るだけ自己決定して頂ける様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った支援をしたいと思っているが、実際に一人ひとりのペースに合わせる事が難しい時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に2ヶ月に一度来ていただき、カットなどしていただいている。又同じ衣類の着用にならないよう、職員が衣類選びにアドバイスしたり、気分転換を兼ねたおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、出来るだけ利用者と職員と一緒に準備、片付けするようにしている。	調理の手伝いや味見、食器洗いやテーブル拭き、買い物に出掛けたり、献立を考えたりと利用者それぞれが出来ることを行っている。また、利用者の状態に応じてその人にあった食事形態を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない方には、必要に応じて様々な種類の飲み物を提供して水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝、紅茶うがいと就寝前の義歯洗浄を励行している。朝と就寝前の歯磨き時には必ず見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の意思表示を出来ない方も含めトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用することで利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄を行っている。また、オムツに移行する人が少なく、入居時の状態を維持することが出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多く使うよう心がけ、コーヒーやポカリ、好きな飲み物も提供し、水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	男性が入浴する日と女性が入浴する日を決めているが、希望に応じてゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。また、入浴拒否をされる方にも気分転換を図りながら、入浴して頂けるよう促している。	各日に入浴を午後から行っている。自宅にいるときは入浴嫌いの方も、職員の声掛けや対応を変えることで定期的に入浴するが出来る。また、入浴剤を入れるなど入浴を楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に、リビングのソファや畳の間でくつろいだり、居室で昼寝をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとの投薬一覧表を作成しており、職員はいつでもそれを見ることが出来る。薬は日付、利用者ごとに分けて職員が管理し、服薬介助見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物等出来る方には手伝って頂き、自由に過ごしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力的に困難になってきている方もおられ、十分な外出行事ができていないが、家族の協力を得ながら、ドライブや散歩している。	玄関先に出て日光浴をしたり、ドライブに出掛けたりと気分転換を図っている。また、事業所の裏には桜の木が植えられており、春には家族と一緒に花見をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を理解して管理出来る人は少ないが、理解出来る人は買い物等一緒に行ったとき、支払いしてもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症が進行し、電話をかけられない方もいらっしゃるが、いつでも、スタッフルームから電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が広く明るく快適に過ごせるようになっている。又空気の流れ換え、エアコンの調節等スタッフが気を配り、居心地よく過ごせるよう心掛けている。	玄関先には季節の花や、春に咲く球根が植えられている。リビングのテーブルには花や、新聞、雑誌が置かれており、利用者が好きなところでくつろげるようにソファを上手く配置し、畳にはこたつが置いてある。また、浴室では椅子のひじ掛けにタオルを巻いたり、金具が当たらないようにスポンジでカバーするなど、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングがあり、気のあった利用者同士で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物や好みの物を、自由に持ってきて頂き、落ち着いて過ごせる居室作りをしている。	居室にはテレビや椅子、家具、懐かしいカラオケのテープなど使い慣れたものが持ち込まれている。また、部屋の空気の流れ替えをする際ドアを開けても中が見通せないように暖簾をつけるなど、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物は安全の為、室内で利用者と一緒に干し、外に出すようにしている。トイレの場所はよくわかるよう表示している。		